

サービス提供事業所における 利用者主体のアセスメント

袖ヶ浦ひかりの学園
菅原 良武

この科目の内容

○サービス提供における利用者を主体としたアセスメントの考え方やその手法について理解する。

○また、障害種別や各ライフステージ、各サービスにおいて留意すべき視点について理解する。

キーワード

- ストレングス
- 利用者主体
- 意思決定支援
- ライフステージ

アセスメント

(アセスメントの目的) 何のために

(アセスメントの実施主体や質の担保) 誰が

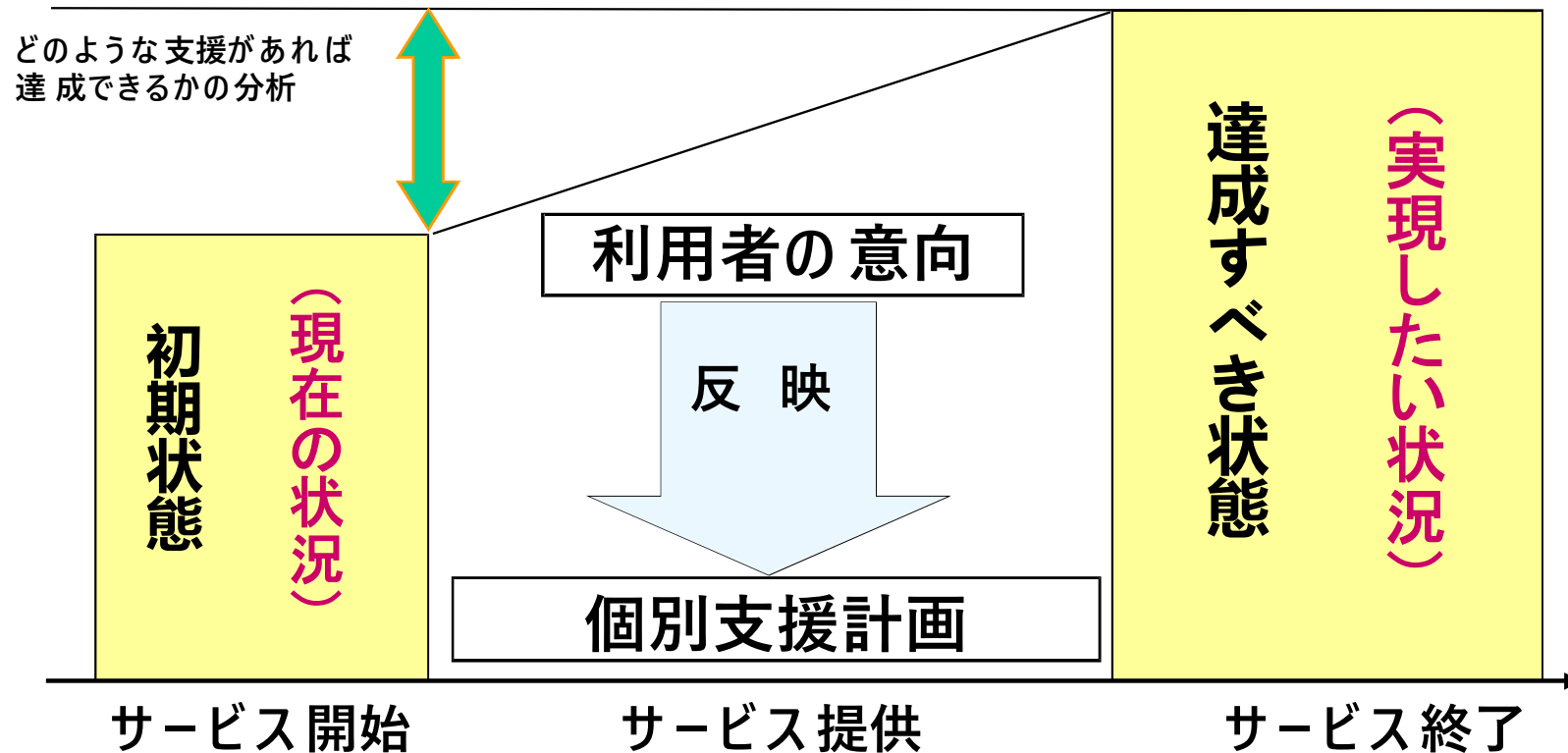
(アセスメントの実施方法)
どのような方法（技術）で

(アセスメント結果の活用)
どのように活かすか

支援者が可能性の幅を限定してしまっていないか。

達成すべき状態の明確化

サービス管理責任者等の役割
ニーズに基づいて利用者の望みを実現



本人中心の支援

本人中心の支援

本人の表現能力の低さや遠慮などにより意向が把握しにくいことがあるが、本人の意向を丁寧に把握し、個別支援計画の作成やサービス提供等を本人の了解を得ながら進める。

※意思決定支援

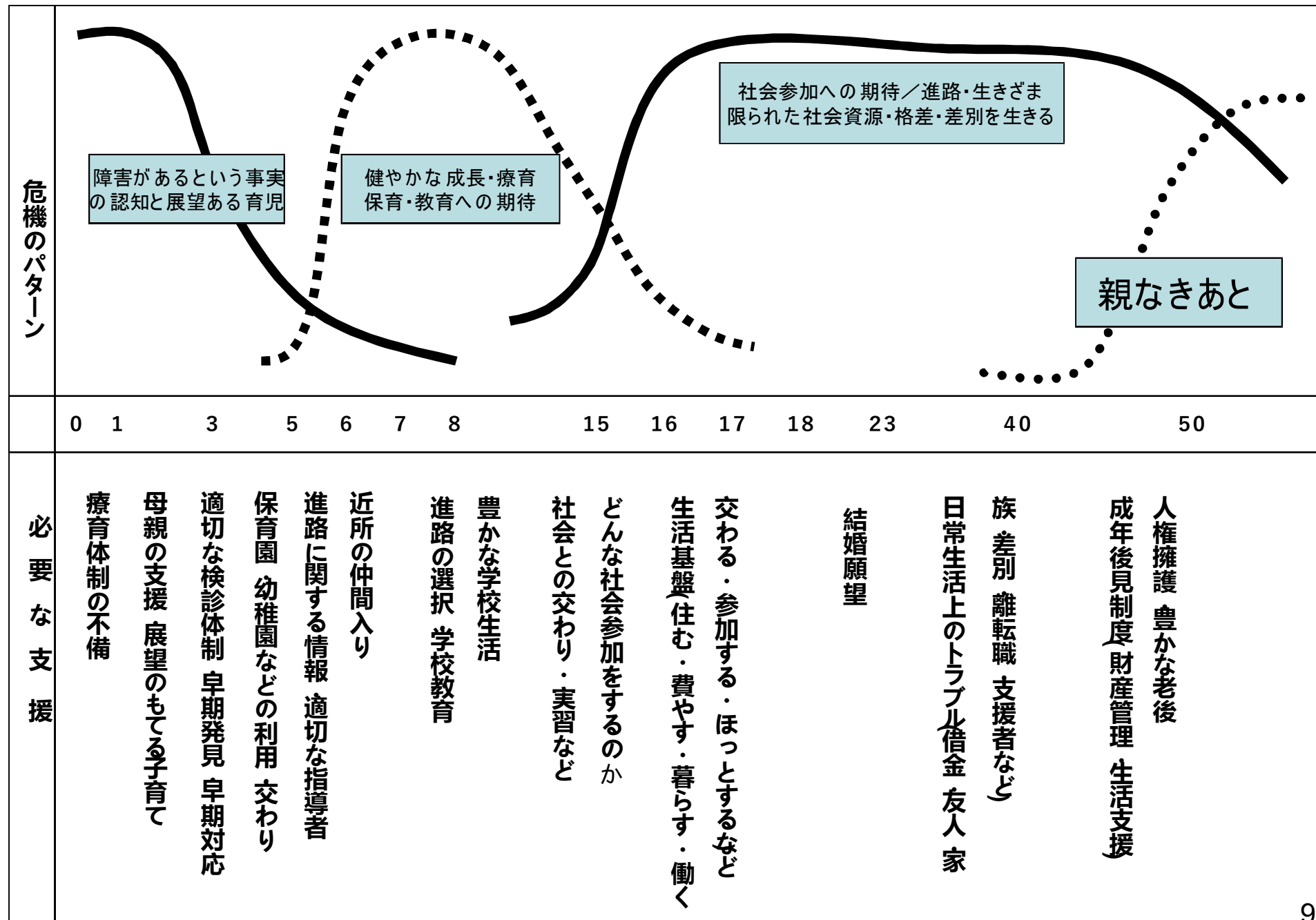
生活介護・療養介護のアセスメントの留意点

- ・ 障害の重い方を支援しているため、ADL・課題行動に関して能力評価（出来ない事探し）をする傾向にある。
- ・ 安全性ばかりに着目した、リスクマネジメントにならないようにする
- ・ 能力評価等は、決して間違ったアセスメントではないが、これからは、アセスメントの視点を切り替えることが求められる。
- ・ 自立性も考慮した、ストレングス（利用者の強さ）を常に意識する。
- ・ 利用者の自主性が向上するよう、自己決定・自己選択を基本とする。
- ・ 標準化されたサービスは事業所マニュアルで示し、個別化されたサービスは支援計画で示す。

連携

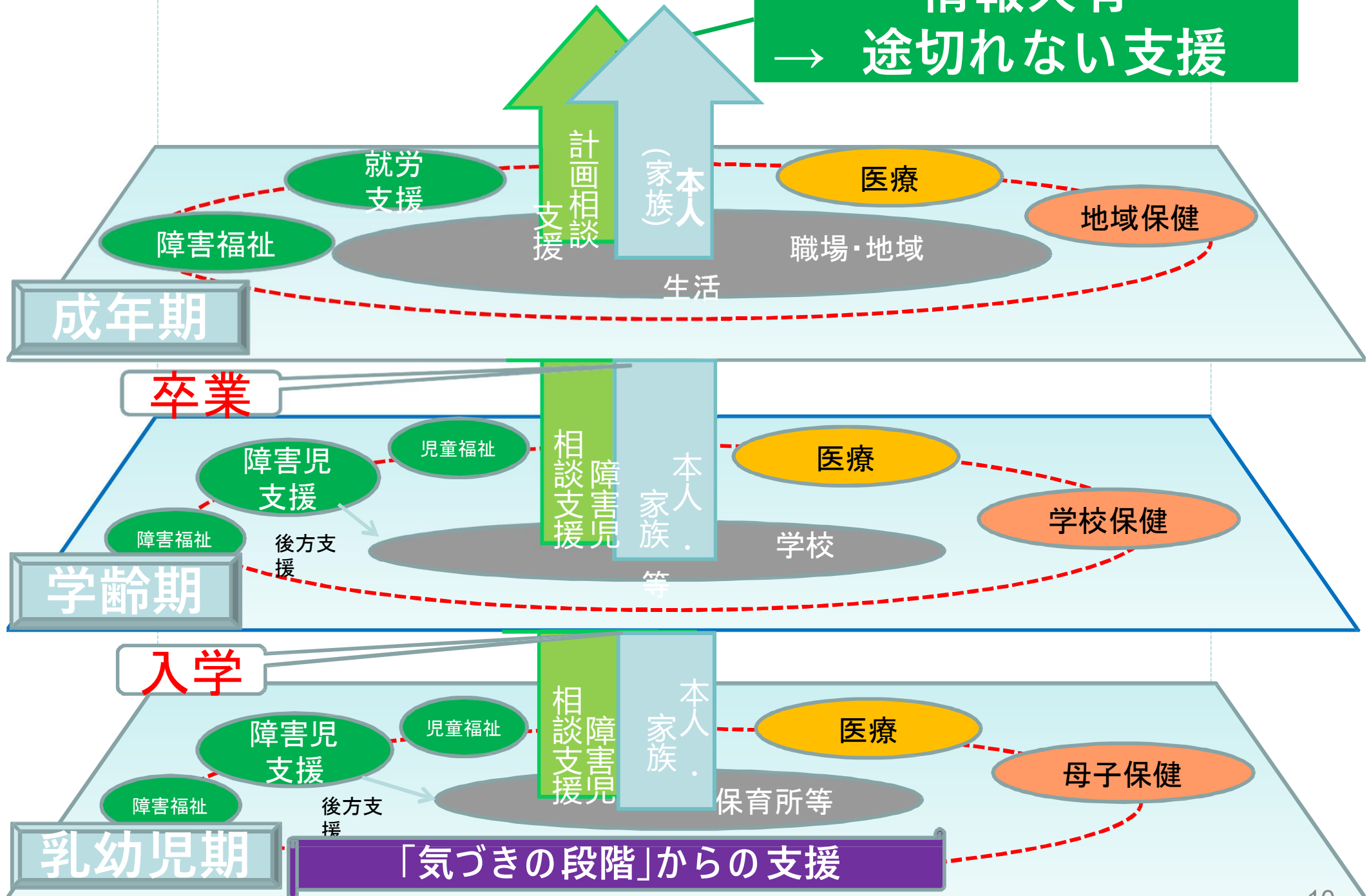
- ライフステージを通じた支援の視点をもっているか？ → 分野統合の意味
- 児童から大人へ
- 学校（教育）から事業所（福祉）へ
個別移行支援計画の申し送り、引継ぎ

ライフステージから見た生活（生活危機）（大泉1981より援用）



地域における「縦横連携」のイメージ

情報共有
→ 途切れない支援



児童発達支援におけるアセスメントのポイント
～子どものライフステージに応じた一貫した支援・・・地域連携～

地域連携について

- ◇「気になる」段階から気軽に保護者からの相談に応じたり、子どもへの療育が提供できる身近な場となる。
 - 一つの事業所で支援は完結してはならない(子どもは地域の宝)
 - 診断を受けないと利用できないことを前提としない工夫
- ◇家族支援を含め個々の状況に応じた療育や発達への支援が、地域の支援システムづくりにつながることを意図して支援を提供する。
 - 子どもが通過していく機能を果たすための利用前後の時期の連携
 - 地域の中での役割の明確化(事業所の一方的な主張ではない)
- ◇サービス担当者会議への参加等、より積極的な地域連携を心がけ、発達支援の地域拠点として機能発揮する。
 - 地域と子どもとの接点を常に探っていく
 - 個別支援計画においては、集団活動での参加状況や、集団活動に参加していくための効果的なやり方を常に確認し、その可能性を探る
 - 地域の中にいる子どものための人材を見つけていく